

四王寺県民の森「ワンヘルスって何？」

2022年12月16日

「One Health ワンヘルス」最近よく耳にすることはありますか？

ワンヘルスとは「人・動物の健康・環境の健全性はひとつ」と捉え、一体的に守っていくという考え方です。私たちが健康に暮らしていくためには、地球に暮らす動物、そして地球自身も健康である必要があります。今回の観察会はワンヘルスの森として整備が始まった四王寺の森で「ワンヘルスルート」を歩き、四王寺山の豊かな自然や歴史を感じる一日となりました。

本日のプログラム

- 「ワンヘルスって何？」福岡県ワンヘルスガイドのお話
- ワンヘルスルート「森と歴史と眺望のコース」 五感をつかって森林浴
- 県民の森センターでランチタイム
- 「大野城・水城・基肄城 1350年の歴史」DVDの鑑賞
- ワンヘルスの森ミュージアム（展示館）観覧



朝から小雨の降るあいにくのお天気でしたが、水時計から命名された漏刻の池からスタートし、新しく整備された約2.5キロの「森と歴史の眺望コース」を歩きました。

てるは池では、少しだけ残るイロハモミジやカツラの紅葉に接し、子どもの国広場ではトチノキの大きくベタベタしている冬芽に触れます。森が開けたところの湿原では、陸と水が緩やかにつながる、生物に優しい生息空間「エコトーン」を観察しました。その後も約1350年前の高床式倉庫跡の尾花礎石群、炭化米が見られる焼米ヶ原など見どころが次々と現れます。センボンヤリの群生地では姿勢を低くして、春とは異なる秋の姿を写真におさめる方もいらっしゃいました。

コースの後半、樹齢100年のヒノキの森でマスクを外し、森の香りを胸いっぱい吸い込みます。

ラクウショウの森では膝根の話から、気根、板根、葉痕という「コン」つながりの話でなごみました。

午後からは県民の森センターでDVD鑑賞をし、ワンヘルスの森ミュージアムで大野城跡の歴史や生物の多様性の豊かさに触れました。

心配された雨もあがり、盛りだくさんの観察会は無事終了。参加者の皆さんは満足された様子で四王寺の森を後にしました。

参加者 21名 事務局 1名 スタッフ手島・常藤(記)・ワンヘルスガイド千田 計 25名